【第一線で地域医療をリードする病院紹介】

The front hospital

ザ フロント ホスピタル

医療法人
橋本病院
和歌山県和歌山市

急性期から在宅まで幅広く支える外科手術で地域に根差して「100周年」を目指す

医療法人橋本病院は1952年の開業以来、親子三代にわたって消化器外科を中心に地域医療に従事してきた。近年病院の機能分化が進む中で、高度急性期医療機関、地域のクリニック、在宅専門クリニックと、各方面から求められる分野を強化しながら、100年続く組織を目指している。

時代のニーズと共に進化し外科と整形外科の二本柱を確立

医療法人橋本病院は、1952年に橋本外科医院として開設。創業者の橋本忠徳氏は理事長である橋本忠通氏の祖父にあたり、三代にわたり消化器外科医療に携わってきた。現在は、理事長の弟で整形外科医の橋本忠晃副院長も加わり、外科と整形外科の二本柱を中心とした診療体制を整えている。病床数は、一般病床60床、地域包括ケア病床41床、医療療養病床17床、計118床を有するケアミックス病院である。

同院はJR和歌山駅から4㎞ほどの市中心部に位置し、5㎞圏内には和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センターなどの高度急性期病院が集中している。

機能分化が進む中で、同院の外科分野では近年、がん手術の件数が減少傾向にある一方、胆石や鼠経ヘルニアなどの手術が増えている。がん手術の多くでは、ロボット手術などの高額な医療機器の使用が一般的になってきているため、その多くは高度急性期病院に委ねている。一方で、簡易でありながら全身麻酔が必要で合併症のリスクも伴うため、一定の機能を備えた病院でなければ実施が難しい分野の手術に特化し、地域のクリニックなどからも積極的に紹介を受けている。

「まずは100周年、その先も長く地域に根付く病院を目指したい」と語る橋本忠通理事長

70年以上前から地域に根差して消化器外科医療と手術に従事。7年前から整形外科にも注力

CVポート埋め込み手術をスムーズに行うための「橋本式カテーテルロック」を開発。手術時間を短縮し安全性を高められる

気軽に受診できてある程度の治療は完結できる「コンビニ病院」を目指す

橋本式カテーテルロックは特許を取得

また、近年力を入れているのが、CVポートの埋め込み手術だ。抗がん剤治療などに用いられるCVポートは、同院のがん治療や手術でも用いられるが、近隣の高度急性期病院の抗ガン剤治療患者のCVポート埋め込み手術を、同院で行うパターンも多い。

さらに、在宅医療を受ける患者のためのCVポートや胃瘻造設の手術も増えている。同院では地域の在宅専門クリニックや介護施設との連携強化の一環として「連携講演会」も開催。CVポート造設により訪問診療スタッフの負担軽減が期待されることなどを共有している。

また橋本理事長はCVポート埋め込み手術に使用する「橋本式カテーテルロック」を開発し特許を取得している。これを使用することでポートとカテーテルの密着性が向上し、「カテーテル」を傷つけるリスクが減り、手術時間の短縮にもつながっている。同院のCVポート埋め込み手術は年間140件を超えており、橋本理事長が「こんな道具があれば手術がしやすい」と医療機器メーカーに提案して制作したものだ。現在は商品化され、全国の大学病院でも活用されている。

整形外科分野では、手術からリハビリまで幅広く対応している。近年は特に、高齢者の骨折の連鎖を防ぎ、寝たきりを予防する「骨折リエゾンサービス（FLS）」と「骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）に注力している。専門性の高い骨粗しょう症治療が評価され、和歌山県内でも2施設しかない、国際骨粗鬆症財団（IOF）の銀賞施設にも認定されている。

橋本理事長は「患者さんが気軽に来院でき、ある程度の問題は解決できる“コンビニ病院”を目指しています。また、今後の医療の中心が病院から在宅へと移る中で、CVポート手術などは在宅医療でもより需要が高まる分野です。地域の医療機関との連携を強化することで、在宅から急性期まで幅広い患者さんの手術を担える体制を構築しています。2025年を迎え、医療需要は減少していくと言われていますが、整形外科の患者数はしばらく増加傾向にあるとみています。当院は現在創業73年を迎えており、外科と整形外科の二本柱を軸に、地域と時代のニーズに応じた医療を提供しながら、100周年を目指したいです」と話す。

こうした体制強化の一環として、2017年には増改築と全館リニューアル工事を実施。MRI、CT、ハイビジョン電子内視鏡の入れ替えや新規導入を行った。また、手術室の感染症対策も強化するなど、ハード面でも高い医療レベルの

手術機能を強化するため、2017年には病院を増改築し、
全面リニューアル

高度医療機器も新規導入や入れ替えを実施

手術室2部屋は清浄度クラス1000のクリーンルームを採用し
感染対策を強化

1.5ステラMRIを導入

維持向上に取り組んでいる。

期待を上回るホスピタリティで ファン獲得と組織の成長を実現

橋本病院では、法人全体でホスピタリティの実践にも力を入れている。

橋本理事長が2018年に院長に就任した当時、最大の課題は職員の接遇に関する患者からのクレーム対応だった。そんな折、元ザ・リッツ・カールトン・ホテル日本支社長の高野登氏の講演に感銘を受け、ホスピタリティに関する同氏の著書を各部署に配布。さらに、毎朝の朝礼でスタッフが順番に行うスピーチテーマを「ホスピタリティ」に限定するなど、スタッフの意識改革を進めた。

効果はすぐに表れ、患者さんからのクレームは見る見るうちに減少し、患者さんからの退院時アンケートや意見箱にはクレームよりも感謝の内容が増えてきた。

アンケートで良い例として名前があがったりコメントで言及されていた職員や、職員間で投票して評価が高かった職員に対して、年に一度ホスピタリティ賞として、クリスタルトロフィーと金一封として商品券を贈呈している。受賞した数名の職員はそれが成功体験となり、やりがいにもつながっている。

橋本理事長は「高額な医療機器を導入することも患者さんのためかもしれませんが、当院が今すぐ導入できるかというと難しいです。ホスピタリティ教育はすぐ実践可能な取り組みでしたし、コストをかけなくても患者さんの満足度を上げることができたので良かったと思っています。特別な知識が無くてもすぐに実践できることで、スタッフにとっても、患者さんから名指しで感謝の言葉をかけてもらうことが増え、やる気の向上につながっているようです。また、病院全体の士気があがり雰囲気がよくなったことで、スタッフの紹介で良い人材が増えてくるという流れができてきました。組織として一皮むけたというか、良い組織になってきている実感を持てています」と語る。

地域との連携や協力を大切に 100年続く組織を目指す

今後の病院経営を見据えた業務効率化も進んでいる。その一例が患者への説明動画の導入だ。現在は「入院案内や検査の説明、CVポートや胃ろう造設などの手術説明」に関して動画を活用している。以前は医師やスタッフが15分程かけて説明していたが、患者がiPadで動画を視聴する間、別の業務に従事することができる。同院の新規入院は毎月120～130件、CVポート埋め込み手術は年間140件に上るため、大幅な業務効率化につながっている。説明漏れもなくなり、均質化も実現。患者にも問題なく受け入れられており、クレームもないという。

橋本理事長は「病院経営が困難な時代に入り、和歌山でも病床削減や閉院、統合など余儀なくされている病院が増えています。自院だけでなく地域全体でも活性化が必要と考え、数年前に「これからの医療を考える会」を仲間と立ち上げました。若手医師や、2代目3代目の後継経営者が集い、毎回外部講師を呼んで勉強しています。地域を盛り上げるという点では、一昨年からはじまった和歌山けやき大通りイルミネーションにも協賛しています。和歌山の有名企業と肩を並べて地域の活性化に一役買えたことは、職員からも喜ばれました。厳しい時代ですが、地域との連携を大切にしながら時代のニーズに合った医療を提供し、まずは100周年、そしてその後も長く地域に貢献できる病院を目指します」と語る。

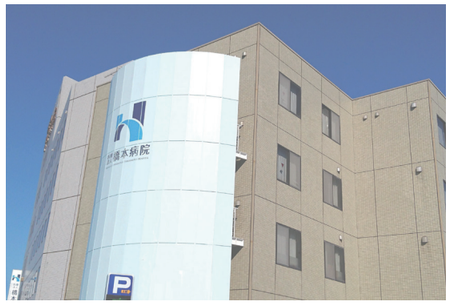
年に一度、職員の中から「ホスピタリティ賞」を選出。職員のモチベーション向上と組織の活性化につながっている

高度急性期病院から在宅専門クリニックまで幅広く連携を強化。
その一環として「連携講演会」を実施

整形外科分野では、骨粗しょう症治療に注力

地域と協力しあい地域全体で活性化を目指す

hospital data



医療法人橋本病院

〒641−0041　和歌山県和歌山市堀止南ノ丁4−31
TEL:073−426−3388
https://hashimoto−hp.or.jp

■診療科目:消化器外科、外科（内視鏡）、肛門外科、整形外科、リハビリテーション科、心療内科、精神科、消化器内科、内科、糖尿病内科、循環器内科、放射線科、麻酔科、泌尿器科、皮膚科、呼吸器内科、血液内科
■病床数:118床（一般病床60床、地域包括ケア病床41床、医療療養病床17床）